京都外国語大学校友会教志会
令和８年度英語教育実践報告研究会　報告書

日時　：　2026 年(令和 8 年)7 月 25 日（土）
13 時－18 時 30 分
場所　：　京都外国語大学 1 号館　7 階
参加者　：　77 人



1）開会挨拶　教志会　会長　樋口　一哉

2）講演
講師　京都外国語大学　元学長　小野隆啓　先生
演題　「自然言語の特質と生成 AI」



「地球上に存在する生命体の中で、言語を操るのは人間だけである」冒頭で言語とは人間だけに与えられた特別なものであることを示された。生成 AI の膨大なデータの中から、過去に同じような文が使用されたかどうかを調べるのもよいが、生成 AI は、母語話者なら当然持ち合わせている言語使用の法則や直感のようなものを持ち合わせていない。生成 AI が万能ではないことを、私たちは知っておく必要があると提言された。

3）実践報告　3 名



① 奈良県広陵町立真美ケ丘第一小学校　高谷　文也 先生
「小学校外国語科における授業実践
～地球市民を育むことを目指した CLIL を取り入れた授業の模索～」
地球市民を育むために、英語教育において何を教え何を思考させるか…その問への答えが CLIL だった。扱うテーマは、自分自身や自分の身近な人々に始まり、世界規模の課題や時事的な話題に及ぶ。学ぶ内容を児童が現実に引き寄せて思考するとき、学習意欲と言語の習得効果が大きく向上することを示された。



② 和歌山県立向陽中学校　髙橋　健太 先生
「アナログの熱狂とデジタルの深化：
ゲーム化ドリルと、AI を活用した『話す・書く・話す』のサイクル実践」
公立中高一貫校の中学部での「即興的なやりとりと質疑応答における即応力の育成」を目指した実践を発表された。名刺サイズのカードを大いに活用したアナログ活動で生徒の即応力の伸長を目指すと共に、話したことを書き、書いたことを再度話すサイクル活動が話す力を向上させた実践例を紹介された。書いたことを添削する場面では、AI を活用されていることも示された。



③ 灘中学校・高等学校　三原　伸剛 先生
「自由英作文の授業実践～AI 学習アプリを活用して～」
「書く」力の育成に取り掛かった時、添削・返却のスピードアップや正確さを重視した指導のあり方、また、生徒が自分で英作文を推敲しながら作文の量と内容を向上させていくことを可能にする方法など５つの疑問にぶつかり、AI 学習アプリの活用を始められた。四技能を内容、頻度共にバランスよく織り交ぜた学習の継続により、英検合格者および GTEC の CEFR-J B2 レベル取得者の数が飛躍的に増加した実践を紹介された。

4）閉会挨拶　教志会　会長　樋口　一哉

5）懇親会　16 時 45 分－18 時 30 分　4 号館 6 階ラウンジ
参加者が和やかに情報交換する良き場となった。



以上

文責　教志会役員　松本　友美